

## アジア金融資本市場は安定化の兆し、回復にはなお時間か ADB の報告書

【東京、2009年4月21日】アジア開発銀行(ADB)が21日発表した最新の報告書によると、アジア新興国の金融資本市場は、世界金融危機が一段落し投資家の買いが戻るにつれ、アジア各国経済の相対的な力強さに支えられる形で、徐々に安定化し始めていることが明らかになった。報告書(Asia Capital Markets Monitor)は、ADBが新たに発行する年刊刊行物で、アジア市場の現状と課題について分析を行うもの\*。

もっとも、現下の景気悪化の期間とその程度は依然として見通し難く、アジアの株式・債券、および通貨市場の回復の道のりは遠く、険しいとみられる。

ADB 地域経済統合室(OREI)の李鐘和(Jong-Wha Lee)室長は、「アジア新興国の金融市場は、昨年時点で想定されていたよりも大きな打撃を受けたが、先進国では経済の収縮が本年も続く一方、多くのアジア新興国では経済成長が見込まれるため、アジアの金融市場は、他地域の金融市場よりも早く立ち直るだろう」と話している。

アジア株式市場においては、2008年後半に投資家による大量の資金引揚げがあったが、2009年第1四半期にはそうした流出は目立って減っており、アジアの経済見通しについて海外投資家は悲観的ではないことを示す結果となっている。アジアへの民間資本流入は、資本流入が過去最高を記録した2007年に比べればはるかに少ないものの、2009年通年ではネットでプラスを維持するものとみられる。

李室長は「アジア市場における今般の混乱は、各国経済と市場が世界的規模で密接につながっていることを反映しているものであり、各国政府や金融機関にとっては、規制や監督、およびリスク管理プロセスの改善を、国際的に継続することが必要であることを示すものである」と述べている。

アジア新興国の株価は本年3月末現在で前年比約42%落ち込んでおり、特にインド、インドネシア、タイの下落率が大きい。一方、ダウ工業平均は、同じく3月末現在で前年比16%の下落に止まった。

この間、ほとんどのアジア新興国通貨は、リスク回避心理の高まりと大幅な投資の巻き戻しにより、対米ドルで急速に下落した。各国の現地通貨建債券は安定的に推移しているものの、米ドル建の各国債券は、対外的なファンディングの困難化を反映して、米国債とのスプレッドが急拡大している。

この数ヶ月間では、アジア新興国の株式市場は、大幅な下落により値ごろとみる投資家の買いを呼ぶことで先進国市場を上回るパフォーマンスを示している。オフショアの資金調達コストは、依然、歴史的に高い水準に止まっているものの、低下し始めている。現地通貨建て債券市場については、各国政府が景気刺激策の財源確保に動くため増発が見込まれることから、その上昇余地は限られるであろう。

大半のアジア通貨は、今後、回復に向かうとみられるが、短期的にみれば、投資の巻き戻しが続いていることや輸出停滞に伴うアジア全域のドル収入の減少から、下げる可能性もあるとみられる。

---

\* 報告書の対象国は次の通り: 韓国、中国、香港、台湾、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム、インド。